

■ コンテスト四方山対談

～ 8月某日、きゅうあ～るえるの精鋭、某所に集う ～

U：え～、皆さん御無沙汰しています。今日はいつもビッグスコアを叩き出している皆さんに、その秘訣を語っていただけたらと思い御集まり頂きました。どうぞよろしくお願い致します。

>>> Part 1 運用のノウハウ <<<

作戦

<部門選び>

U：さて、一口に作戦といっても、勝ちに行く作戦だけではなく、どうやったら面白いとか、目的に応じて色々な作戦があると思います。まずは皆さん、どんな基準で部門を選ばれていますか？

O：やはりまず初めにマルチバンドでの参加を考えますね。同じ時間だけオペレートするならばたくさんQSO出来た方がいいというのが大きな理由なんです。その上で、是非勝ちたいときとか、時間や設備等の制約がある場合にはシングルバンドとの比較検討を始めます。それと、新しく導入した設備のテストを兼ねたり、苦手なバンドの練習の意味合いから部門を選んだりもしますね。

J：やはり競技としての面白さという点ではマルチバンドが究極でしょう。QSYのタイミングやコンディション把握など

自分の工夫に託されている変動要素が多く、やりがいのある部門だと思っています。

しかし、いつもマルチバンドでやるのは大変ですし、賞状を取りにいくときは前年の結果を分析してシングルを選んだりします。前年誰が出ていたか、その局数やマルチを検討して入賞の可能性を探ります。1.9がある場合はAJA稼ぎも兼ねて出ることもありますよ。今、家で一番いいANTが144/430のGPですので、CW部門とかで出ています。賞状の穴場です。アッ、これはないしょ。

U：コンテストを始めた頃は賞状貰える部門ならどこでも良いという感じでしたけど、一瞬の判断とかの面白さを追及する向きにはマルチバンドですね。けれども、シングルバンドも出ているマルチを全部集めないと勝てないようなシビアな面があって面白いですよ。

<準備>

L：私の場合はコンテスト時間の10倍以上を作戦計画に費やします。過去の結果分析やJARL主催コンテストでは1ヶ月まえからこまめにコンディションの把握に心掛けます。また、運用パターンを頭に叩き込んで簡単なシミュレートを行うこともあります。

J：入賞スコア（自分の目標）を算出し、その局数マルチを実現するためのバンドタイムチャートを立てることが重要ですね。ただ漫然と参加しているのでは、どこを頑張ればいいのか分かりませんの

で、ダレますからね。計画は事前に綿密に立てておき、コンテスト中は、それを実行することに集中する、これがコンスタントに結果を出していくために大切だと思います。特に移動の場合には、ANT

U：確かに、運用プランや目標があると無いとでは結果が違ってきますね。参加記のタイムチャートを参考に自分の設備に合った運用プランを立てて参加したら、実際スコアがあがってきました。

O：過去の結果はいろいろな角度から、何度も分析して目標を設定したり、運用プランを練ったりしますね。それがまた楽しかったりするんですが。ただ気をつけなければならないのは、前回の入賞スコアを出しても決して今回の入賞が保証された訳ではないという事。部門によっては近年のレベルアップは凄いですからね。

U：これは行ったと思ったら入賞圏外のこともあれば、タナボタ入賞することもありますよネ。勝敗も大切だけどその時々

O：準備といえば他にも、飲み会やデートの予定を外しておくとか(!)、有給休暇をとっておくとかも大事ですよ。

<コンテスト別作戦>

U：全市全郡ならQSOレートが一番良くなる方法を考えますよね。どのバンドが能率がよいか、呼びとCQとどちらが効率がよいかと考えることが、まず基本で

しょうか？

L：ALL JAはマルチ重視、6&Dは1200以上の運用時間、FDは状況により2～3の運用パターンの立案、全市全郡はレート維持に重点をおいています。

J：結局、局数*マルチなわけで、バランスよくとっていくための作戦ですね。全市郡はマルチ探す必要はないのでレートだけを考えればいいけどALLJAのマルチバンドは難しいですね。一番難しいです。例えば途中経過1200局200マルチだったとすると、1マルチ増やす事は、6QSOと同じです。どちらが残り時間を勘案して重要なのか、効率的なのか、可能性が残されているのかの判断でしょう。わかっちゃいるけど朦朧とした頭だと判断が付きにくいんですよ。そんでもって、

楽できるバンドに行ってしまう...
O：全市全郡ってマルチ探したりしないわけでしょ。でも例えばまだ100局しかやってない3.5Mと300局もやってしまった50Mではニューマルチ獲得率が全然違う。レートは50Mの方がまだ高いとしてもどちらをやれば得なのかって考えると本当はこれも結構難しいと思うんです。自分のコンテストログやシングルバンド部門の結果表から、QSO数-マルチ数プロットをするとQSO数の増加に伴うニューマルチ獲得率の変化とマルチ数の限界が見えてきて、一応参考にはなります。

オペレート

<呼ばれるコツ、呼ぶコツ>

U: コンテストの華はパイルを捌くことだけど、どんなに呼ばれていてもQSO毎に(フォネティックでなくてもいいから)IDを言う/打つのが、呼ばれ続ける最大のコツと思うな。

J: 毎回IDが基本でしょう。でもパイル捌かれ慣れしてる50MHzのSTART時なんかは「QSLQRZ」と2回に1回はとぼしたりしますね。ここいらは需要度を感じ取って臨機応変でしょうか。とにかく程よいパイルを続けるためにどれだけこちらが喋ればよいかの調整だと思います。パイルを受けてなかなかID出さない局が居ますが、パイルを平準化させるためには毎回のようIDを言うことが大事だと理解してもらいたいものです。

U: 逆に呼ぶ側からだと、時間の無駄なのでID出さない局はめったに呼びませんね。これで、少なくとも1QSOは損することになりますね、hi。

O: CWでもSSBでもパイルを捌くときは基本的に、最も早くスタンバイした局からピックアップするように心掛けています。たとえコピーが不完全でもなるべくそうしてます。ロングコールしてくる局を先にピックアップすると次はみんながロングコールを始めちゃいますからね。レートを上げる為には重要だと思います。

U: CWで呼ぶときはオンフレじゃ無い方が早いと思いませんか?

O: 最近皆さんかなりナローなCWフィルターをお使いのようで、ぴったりゼロ

インして呼ばれることが多いですね。2局以上に完全に重なって呼ばれたりするとコピーが大変です。だから呼ぶ側に回る時は少しだけシフトした方がいい場合って確かにありますね。かと言ってあまり大きくずらすと相手局の帯域外になってしまうけど。

L: バンドによって使い分けも必要ですね。HFや50MHzはバンバン捌いても大丈夫ですが、144MHzではひとこと挨拶をいれるくらいのゆとりが大事だと感じています。また、430や1200MHzのFMではフォネティックスコードがわからない方が結構いますので、ゆっくりコールを言った方が確実に取ってもらえます。(特に私の場合はLとR、QとKで頭がこんがらがってしまう方がいるもので・・・)

J: コンスタントに呼ばれるコツは、そのバンドのノリ・習慣を理解し、そのバンドの人になる(化ける)ことだと感じます。ちょっとした言い回し・間の取り方がバンドで違ってると思います。

U: Jさんが2mで「さらにど〜ぞ〜」とやっているのを聞いたときは、完全に化けきっているなと感心しましたよ(笑)。

「マーフィーの法則〜コンテスト編」

by JR80FE

(珍マルチの法則)
珍マルチに移動した者だけが珍マルチを逃す。

(短いCQのススメ)
QSOを開始できないのは、唯一CQ送出中である。

<ランニングと呼びの使い分け方>

U: 突然1時間だけCQ出して引っ込む人とか多いから、こまめに呼びに回らないとなかなかスコアは伸びないんじゃないでしょうか。DXでもW3LPLなんか、CQ出したとたんに呼んでくるような感じですよ。かといって呼びにしか回らない人も居るから、この兼ね合い難しい。皆さんは、どのように使い分けていますか?

J: 呼びとCQは、呼ばれるうちはランニングするにかぎりますが、レートが落ちたらバンド内の状況把握も兼ねて呼びに行くのも大事ですね。このタイミングは賭ですね。ALLJAクラスのローバンドですと私の設備ではそうそうランニングができませんし、呼び回わりが多いですね。2VFOをフル活用して60QSO/hくらいはできますのでかえって無理槍CQ出すより確実な気がします。マイナーコンテストのシングルで、余り呼ばれてないときは、何分おきにバンドスイープすると決めておいたりもしてます。

U: うん、40~50QSO/H以上で呼ばれないときは、呼びに回った方が能率がよいと思うなあ。

L: JARL主催の場合は開始数時間とはにかく効率の良いバンドで稼ぎます。さすがに夜中とかHFハイバンドは悩みますね。ここ数年はハイバンドの状態が1エリアにとっては辛いです。特に14MHzは殆ど呼びにまわっています。支部レベルのコンテストであればよばれなくてもCQ連発しないと上位は難しいです

よね。

J: シングルバンドであまり呼ばれてなく、ライバルもCQ出しまくってる時は特に迷いますね。探しに行くべきか、もしかしたらその間に呼んでくるはずだった局を逃してしまうかも。ここいらの動き方が微妙な点差になっているのじゃないかな。

O: 手際よくパイルを捌き、程よい大きさのパイルを保つようにコントロールするのは勿論必要不可欠な技術ですが、呼びに回っても高いレートを保つというのはさらに難しいテクニックだと思います。どのバンドでどのくらいのコンディションのとき、自分がどのくらいのペースで呼びに回れるか、によってランニングから呼びに切り換えるべきタイミングが変わってくる訳ですから、Jさんの言うとおりの判断が鍵ですね。そしてある程度パイル捌きができるようになったら、呼びの技術も磨いておきたいですね。私も勉強中です。

J: みなさんもそうかと思いますがRIGで唯一印刷がかすれているのは、A/B・A=Bです。親指と人差指でVFOを微動し、中指でA/B、薬指でA=B、これが無意識に連携プレーしバンドを隈なく高速にのめっていきます。

U: 眠い時はこれがキツイんだなあ。

J: 設備を揃えてロケを確保しCQ連呼で優勝というのも、それなりの努力があつてのことだと思うけど、呼び回りでCQ連呼

(降水確率)
移動運用の撤収時に最もよく雨が降る。

並以上をいくというのがなかなか玄人好みというか、それも楽しいですね。

U：うん、ある程度呼ばれるようになってくると、今度はこれが面白くなる。

<QSYの極意>

U：わたしは、HFのマルチが集まらなくていつも苦勞してます。DXやってた頃は、人よりいつも沢山マルチを拾っていたので少し自信があったんだけど...国内の方が微妙なコンディション変化に対応する能力が必要な感じがしますが、そのへんの極意ってあるんでしょうか？

J：国内の県マルチはスカッターに依る部分が多いので微妙なコンディション変化を捉えなければならず難しいですね。私もまだ勉強中です。よく拾ってる局のタイムチャートを研究してます。ANTの差だとばかり言われてられませんからね。とにかく今は開けそうな時間にチェック入れに行ってるくらいです。

L：やはりCQ出しても呼ばれる周波数、呼ばれない周波数ってありますよね。通常コンテスト周波数の下から上の方に呼びにわまる方が多いですから、できれば低い周波数でランニングしたいです。しかし、こういった一等地はクラブやシングルバンドが陣取っているのになかなか入り込むことはできませんよね。無理やり入り込む手もありますが、参加局の様

(悪循環)

丁寧過ぎる挨拶と礼は、待たせている局に失礼であり、長く待たせた事を詫言するには、さらに丁寧な礼が必要である。

子やコンディションを把握する目的でQSYしたらまずひととおりのバンドスイープをしています。たまたま空いている周波数があるとCQを出すこともあります。

U：ランニングしながら他のバンドワッチして、空きがあったらさっとQSYする。なかなか空きCHが出ない430へQSYするときなんかは、随分ロスタイムの節約になります。

J：FMの空きチャン探しは呼び回りを兼ねてます。

O：何か基準にしている信号はありますか？ビーコンとか。

L：50MHzはビーコンを聞いています。6&Dの1200MHzは天候によってかなり信号強度が変化しますので、他の『きゆうあ〜るえる』メンバーの信号をマークしています。Hi 21, 28MHzのスカッターには6エリアメンバーの信号やKQJの信号をワッチしています。

O：なるほど。私は自分と同じエリアから参加しているマルチバンダーが今どのバンドにいるかというのも結構気にしています。ハイバンドのオープンには先回りしてQSY、ペースの悪いローバンドは根気負けしないように心掛けています。でも本当は専ら気にされる側の存在になりたいですね。hi

<体調の整え方>

U：少々体調悪くても、アンテナ上げで汗流したらなおっちゃうな。後は、二日酔

(信ずる者は救われる)
良く飛んでいると信じることで、10dbは良く飛ぶ。

いに気を付ければいいかな。

J：コンテスト当日にどうしても飲みたくないように、前日に大量に飲んで二日酔いにしておくのも重要な体調管理では？hi

O：確かに移動運用で参加するときは機材積み込んで出発さえしてしまえば、少々の不調は直っちゃいますね。むしろ長いコンテストは参加した後、翌日からの体調の方が問題だったりするし...。とは言っても運用中の疲労感と睡魔は少なからず得点に影響してくるんでしょうね。学生だったころは前日は風邪をひいて(?)体調を整えたりしてました。

L：1ヶ月まえから規則正しい？生活を心掛けています。特に1週間まえからは睡眠を十分とるようにしています。

J：私は事前から喉の調子に注意してます。すぐかれちゃうので。あとは体力の温存かな。重いANT上げのために筋トレしようかとも思ったことがあります。hi

<気合いの入れ方>

U：スポーツと同じでイメトレは効果があると思うけどどうでしょう？50Mみたいにのっけからどパイルになると、テンション上げとかないとレートが落ちちゃう。

O：現地乗り込みで移動するときなどは、運用地までの車の中でこれから全国にば

らまく事になるコンテストナンバーで架空のパイル捌きをシミュレートすることがあります。フォーンの場合だと発声練習にもなるしテンションもあがってきますね。

J：時間内に持てる力を振り絞るには、事前からのコンセントレーションが重要です。部活で陸上をやったのですが、よく似ていると実感します。後半ダレそうになった時の気力の持ち続け方は、まさに長距離走者のそれと同じだと思います。

L：コンテスト直前には気合を入れるためにビールを1本だけのみます。これ以上はフルオペに支障が出るために我慢しています。でも最近では怪しげな前夜祭が催されているために、ついつい前日に飲みすぎてしまうのです。Hi

ハード

<システムのデザイン>

U：DXと比べて設備規模の差が国内では出難いですよね。皆さんのシステムの勘所って何でしょうか？

J：やはり適度な打ち上げ角でしょうか？移動でも、とにかく高くANTを上げること。ANTが高くなる毎に点も上がりました。

U：移動だと、無線機からアンテナまでの

(故障についての考察)

無線機器の故障は必ずコンテスト中に起こる。
理由1>コンテストしかならないから
理由2>壊れる程の使い方をするから

>>> Part 2 移動のノウハウ <<<

コンテスト開始まで

<場所選び>

U：得意なVU関係は6D 問答で紹介するのですが、HFに有利な場所と言うのは？

J：HF だけでに言える事ではありませんが、ANT が気持ちよく展開できるスペース（空間）が確保できる場所ですね。丘や土手とかで回りが開けているところでしょう。ハイバンドの南系スカッターを捉えるため、南側が開いている所がベターかな。

O：山に移動した場合、後ろに斜面を背負っているような中腹だとローバンドの飛びに影響することがあるように思いますね。コンディションのせいもあるんでしょうが、同じ移動地でもちょっとした設営の仕方しだい3.5Mがだめだったり、7Mがだめだったり……。ローバンドに関しては斜面よりは周囲の開けた丘とか堤防の上とかがいいような気がします。

U：そうそう、ローバンドは山の斜面は駄目ですよね。あと、堤防の上で一回やると、苦勞して500W出すのが馬鹿らしくなるくらい飛びますよね。

<アンテナの種類>

J：マルチバンドはANTが大変だと思われる方も多いでしょうけど、3.5/7 2バンド逆V 14-28 トライバンド DP もしくは

ら片耳づつ聞く事ができます。でも切り換え機があった方が便利そうですね。それと、PTTはフットスイッチを愛用しています。

J：ALLJA 以外はRIGが2台ですので、ヘッドフォンとKEYを切り替え機でつないでます。一応同時受信できるようにしてあります。MICも切り替えようと思ったのですがたまに回り込むので止めました。プラケースで作ったのが失敗でした。

J：CQ マシーン (byJA0IXW) も活用しています。どうもすぐ声がかれちゃうので、こいつなしでは24H戦えません。

U：私はT6668です。マイクのUP/DWNスイッチで送信できるように改造しています。怒鳴っているのが好きなのであんまり使っていないんですけど、夜中は楽ですよ。

J：Zlog キーイングとパラでムラケンのメモリーキーヤーもつないでます。

U：をっと、Ver.2 以上は直接キーイングでできます。これほんと、便利。

J：どうもパドルを打ち捌くのが好きなように手放せません。ともに戦った戦友という感じいつも連れて行ってます。hi

の軽いものにおちつきますね。軽いと地上高も高く出来ますからね。

J：固定だと某H社の、GD78, 714X, CL10DXX なんかいいですね。10mがデカ過ぎるけど。

U：ムムッ、どこかで聞いたようなラインナップ！

<ログソフト>

U：今年からZLOGを使いはじめましたが、これで充分です。

J：私もZlogを使わせて頂いています。わかっている人が作っているなという感じがですね。このおかげでデュープチェックがなくなり後半戦が楽になりました。

U：TR-LOG っているのも評判がいいらしいですよ。

J：TR-LOG ってN6TRの相手ハンドルを打つヤツでしょうか？

U：そうそう、ENCCの会報にもいいって書いてありましたね。

J：そんなソフトがあるとは知らず、N6TR 本人とQSOして、突然ハンドルを打たれてビックリした事がありました。

<小物>

U：ヘッドフォン切り替機を、2バンド同時受信出来るようにしています。

O：僕はヘッドホンはインナーイヤータイプを使ってるので、やはり別々のリグか

(ダブルブッキングの法則)
友人の結婚式は必ずコンテストと重なる。
(反論)>そう嘆いている人に限って、ほとんど毎週コンテストをやっている。

(用語解説)
ツマミを左に回すことを「絞る」と言い、
右に回すことを「絞りだす」と言う。

すべてに機材が無駄無くコンパクトにまとまるように工夫するところも、楽しみの一つです。

J：アウトドアバックパッキングに通じるところがありますよね。

<無線機>

J：コンテストの場合はかぶりに対する強さや分離度とそれに操作性の重要度が上がってきますね。ローバンドにも強くてハイバンドの感度もとなると上を見るときりがなくなります。950SDXに乗り換えたくても¥がありません。移動にはデカすぎますしね。VUはかぶり度が重要でしょうか。50MHzはTRVを使っています。144~はTS790Gですが、かぶるし子供は出るしで？です。でも3in1はラクです。

U：色々使い比べることが難しいので人の評判が便りの綱ですよ。メンバーの皆さんの聞き比べの結果は参考になりました (Part 3 参照)。

<アンテナ>

J：たまたま実家に上げていたANTを、そのまま移動に持ち歩き始めただけなのですが、八木はメーカー製のが楽ですね。完全にはバラさず持ち運びに便利な長さ(2mくらい)でまとめておくと、組立も楽です。移動の場合は重量が最重要ですね。移動のハイバンドはHB32Sが当クラブ標準ANTでしょうか。

U：随分自作もしたけど、移動だと組み立て/分解が頻繁なのでやっぱりメーカー製

HB9CV、50MHz 4ele HB9CV の3本で立派に戦えます。

U：そうゆうアンテナで結果を出せるところが移動の面白いところですね。

O：セダンに積み込んで移動してるので、50Mのエレメントですら一個所ばらしで運んでます。そのためアルミパイプのアンテナは、組み立て個所のほとんどを蝶ネジに変更して作業を簡略化しています。

L：移動のアンテナ設営はやはり手際よく短時間でやりたいものですね。私の場合は年に数回の移動なので、なかなか迅速に行えません。一応イメージトレーニングして臨んでいるのですが、コネクタ付け忘れやらネジ止め忘れ、挙げ句の果てにはアンテナの付け忘れ？などいつも上げ下ろしを強いられています。どなたか一発で上げるためのコツを教えてください。Hi

J：何本も狭い場所にANTを上げるときには、事前に頭の中でシミュレーションをしておいてムリ、ムダをしないことですね。

U：そうやって現地でレイアウトを考えるととても楽しいですね。

J：ローバンドは10m以上、ハイバンドもできるだけ高く上げることが、得点を伸ばしますね。

U：これは、ホントにびっくりするくらい違いますよね。

<アンテナの上げ方>

U：マストはどうでしょう？ 私は、フジのFSPにタイヤベースの組み合わせを使っています。ちょっと細工をしてマストごとロータで回しています。便利ですよ～。立てるときは脚立があると楽ですね。

J：タイヤベースを使う場合は、その踏み位置と水平性でANTがうまく上がり展開できるかが決まるといって過言でないと感じてます。特に私は左前と右後の2カ所踏んで2ポール上げてますので位置関係に毎回悩んでいます。一度決めると動かさませんからね。

O：私もフジのFSPを2本使ってます。7.5mのものなので高さが足りない場合は、

(好天)
「絶好の移動日和」には、本当は無線などすべきではない。

内径40mmの塩ビパイプを継ぎ足して10m近くまで伸ばします。GPやワイヤーくらいだと何とか使えます。タイヤベースに関しては、地面がしっかりしていない場合は3mm厚くらいの鉄板を敷いてその上でベースを踏むようにしてますよ。少し滑るので工夫が必要ですが。水平が取りにくい場合も鉄板の下に何か詰めればいいので便利です。水平の微調整はタイヤベースのワッシャで行います。

U：ところで、移動で10m位上げると、万一倒れたときなど大変な被害が出ますが、設営上度のようなことを注意していますか？

J：オバケポールはタイヤベースをしっかり踏んで、ステーをきちんと取っておけばそうそう倒れないものだと思っています。信じるしかない？ 上げてる最中ノンスターの状態が短時間で済むように4本位伸ばしたら仮ステーを張って無理がないか見回してみて、慎重に伸ばしていくべきでしょう。強風時には伸ばすのを断念することも必要でしょう。

J：UさんはこのまえGL6DXとHB32Sと7MHzIVを1ポールで上げたようですが、かなりの怪力ですね。6DX(7kg)+32S(8kg)=15kg これを素手で9.5mはチヨットきついと思うのですが。

U：いや～、実は背骨が「グキッ！」といいかけて、完全にオーバーロードでした。hi。しかも、トップヘビーすぎて風に

あおられて少しでも斜めになると、もう人力では垂直に戻せないくらいでしたよ。当然自立は不可能で、一段ごとステーを取り直しながら伸ばしました。危険なので絶対まねをしないでくださいってかんじですね。

J：mHからいくとポールはFSPでしょうか？ FAPよりだいぶ楽なのかな？

U：はい、FSPです。FAPは使ったことがないのですが、FSPは、①伸ばしたときのすっぽ抜けがない、②伸ばしきったところで勝手にピンが出てロックされる、③伸ばす途中でも締め付けて休むことが出来る、ので便利です。

J：私はFAPを使っています。安さと分割して使えるところが利点でしょうか。それとFSPより風に反らない気がします。が、どうでしょうか。

U：そういえば、アンテナを付けていないのに、風で釣竿みたいに反ったことあったなあ。

J：Uさんのローテーターには興味があります。私も余っている103LBを取り付けようかと思ったのですが、穴の位置が合いませんでどうしようかと思っていたところでした。

U：簡単なしかけなんですよ。

<シャック>

U：RVのリアシートでやってます。

O：アコードはわりと広い方だとは思いますが、やはりセダンですからねえ。RV車やワゴンが羨ましい。僕の場合、運転席でオペレートします。

J：1BOXワゴン車ですのでシートを倒して

こたつテーブルを入れ込んでやっています。平に寝れるところがメリットかな。車中で3泊4日とかですからね。

移動の工夫

<給油>

U：やっぱり、J氏のF1方式が究極ですよ。私は、給油の度に休憩するので一回15分以上はかかっちゃいますよ。

J：休憩時間として積極的に利用するの手ですが、私はなるべく短くすることを逆に楽しんでます。hi 私の発電機は6時間でガス欠になりますので、あらかじめ運用予定表にどこで給油するのも決めておきます。周波数確保できて調子よく捌いているときに突然ガス欠ではたまりませんから。そして予定時間になったら運用しながら靴を履き、一気に車外に飛び出し、注ぎ口を付けっぱなしのガソリタンクから発電機かけっぱなしで給油します。後からログをみてもどこで給油したのかわからないくらいの時間で終えています。UさんにF1方式と名付けられました。

<移動グッズ>

U：5万分の1地図、山と高原地図、コンパス、車、衣類、色々あると思います。が、...

J：なべやかんから扇風機テレビまで生活用品一式持って行く感じです。特に変わった物はありません。

O：えっ！扇風機とかテレビって変わったものじゃないんですか。私は、電子蚊取り器とかちょっとした医薬品などの忘れ物には特に注意しています。

J：それと最近持ってき始めたのが携帯電話。人里離れた山中に一人で何日もいるので万が一の緊急連絡や家との連絡のためがあると安心です。

<食事>

U：競技中は時間が惜しいのでかわきもと、パン、カップラーメンでやっています。競技の前後は、SBのパックご飯にレトルトカレー、ハンバーグとかの組み合わせが私の好みです。

J：私もSBのパックご飯（大盛り）とレトルト類を基本にしています。それだけでは飽きるので、カップ麺とかスパゲッティを間に織り込みます。あとはオレンジとか、ヴェルディのサラダ缶詰とかが山の上ではうれしいですね。コンテスト中は、ロールパンとかカロリーメイトとかをかじるだけです。

O：コンテストが始まるまでは電気式のポットでお湯を沸かし、レトルトパックの御飯やカレーをそのまま突っ込んで暖め食べます。ポットは400W位の小さなものも市販されてますので、これだと小型の発電機でも十分です。あと、缶切り無しで開く缶詰も愛用しています。設営し終えた設備と景色を眺めながらの食事は、何故か最高に美味しいものですね。コンテスト開始後は、飲み物とカロリーメイト(ブロック)それに栄養ドリンクぐらい

です。ドリンク剤は疲労感が出始めるころに、早めに飲むようにしています。

U：私も、ドリンク剤無しでは24時間戦えません。

L：私の場合はCW部門でエントリーすることが多いのでオペレートしながら食事を済ますことは問題ありません。MIX部門の場合はCWの運用に切り替えて取るようにしています。

J：飲み水はミネラルウォーターのペットボトルこれは必要以上に持って行きます。生活用水はポリタンクです。あと、忘れちゃいけないのがBEERといいちこ。いいちこは普通はウーロン茶かおーいお茶割、寒いときにはお湯割です。1発で体が温まります。移動お泊まりセットの必携品目ですね。900mlで¥700とリーズナブルでもあります。

U：アンテナ上げの後の冷えたビールは、ほとんど麻薬ですなあ。

<お天気対策>

U：一度、真夏なのに雨と寒さで死にそうになったことがあるので気を使います。雨の定番スタイルは、キャップ+ブルゾン+ポンチョ+Gパンです。これで、土砂降りのなかの作業も少しは楽に出来ます。

J：無駄だと思うくらいに衣類はバリエーション多く持っていくべきでしょうね。自然の前では無力ですからなるべく防備しないとね。雨や風の強いときには、陸上用のウィンドブレーカーが前からあっ

たのでそれを使っています。体が濡れると体力消耗しますので着替えTシャツとかたくさん持っていきます。

O：夏の暑さは辛いですね。94年の6DとFDはエアコン入れっぱなしだったなあ。駐車するときフロントガラスの内側に置く屏風型の日除け、あれは効果大きいですよ。暑さ対策の他にも、日射しを遮ってリグのディスプレイも見えやすくなるし。

U：おっ、それは気が付かなかった。早速やってみよう。

<ゴミ類>

J：移動地には土に帰るもの以外は残していかないで欲しいですね。最低のルールです。不用のステー紐も撤収時には回収しきって欲しいものです。以前見かけましたので。

U：移動スポットはゴミが多いですね～。いい子ぶるわけじゃないけど、見兼ねて拾って帰ることもしばしばですよ。移動のフィールドを守るためにも大切なことですよ。

<その他>

O：皆さんは大きなコンテストに参加する際の、ご家族とのマッチングはどのようにされてますか？何かコツと言うか、心得みたいなものはあるんでしょうか。

J：なんだか近々家族が増えるような心配

事だな？(HW?) これはやはり日頃の行いでしかないのでは。日々是決戦。

L：Oさんはいよいよですか？ 私はカレンダーに赤丸をそれとなく付けています。余談ですが、4月30日（Jさんの誕生日でしたね）は結婚記念日ですが、毎年ALL JAの翌日で疲れています。

O：うっ、思わぬ方向に話が展開してしまった…。将来参考にさせていただきます。

— . . . —

U：え～、どうも今回は長時間にわたって有益なお話をありがとうございました。まだまだ皆さんのマル秘ワザについては十分に語り尽くされてはいない模様ですが、ガイドブック Vol.2 ? に期待することにしましょう。それでは、またコンテストで皆さんとお会いできることを楽しみにしています！